



四郷町にある農ライフ創生センター本部



自律支援に向けて草刈り機などの農業機械の操作をマスターする



初心者対象の旬の野菜づくり実習

## 就農者養成拠点

# 全国が注目する農業者への転職を

農ライフ創生センター（愛知県豊田市）

### ■ プロジェクト実現のプロセス

豊田市は自動車産業のまちとしての歴史があるが、近年、合併により県下1位の行政面積となり、森林の保全、遊休・耕作放棄地の活用、自動車産業における団塊世代の定年退職者急増、都市部と山村の格差是正等の課題を抱えていた。こうした課題を包括的

に解決するために、平成16年4月「農業者を養成し、農地を斡旋して豊田市の農業の新しい担い手とすること」を目的に、構造改革特区（営農支援特区）を活用して「農ライフ創生センター」を設立した。農地という「土地資源」と定年退職者（年間3000人）という「人的資源」の融合による市民と「農」の新たな関係を構築するという

取り組みである。

### ■ 主体の取り組み

本部研修所、高岡研修所、下山研修所の3カ所の研修所施設をJAが整備し、管理・運営は豊田市・JAの共同（豊田市7人、JA2人の計9人）による。特色は市とJAの役割分担を明確にし、市が積極的に農政施策として





農ライフ創生センター周辺に広がる研修農場



旬の野菜づくりコースのエダマメとトマトの収穫



初級コースの苗床づくりの実習

## 支援する研修施設

展開していることにある。

事業内容は、①農作物栽培技術研修（2年間の担い手づくりコースと、4～8カ月の市民向け野菜づくりコースがある）、②農地斡旋仲介事業（担い手づくりコース修了生を対象にして10a以上の農地を紹介・斡旋する）、③農家仲介（担い手づくり受講生で、農家でのヘルパーを希望する者を対

象に受け入れ希望農家との橋渡しを行う）、④開発研究（加工品の新規開発、新規導入作物の施策栽培をして地域農業への提案を行う）である。

設立から5年目の実績は、①農作物栽培技術研修は、担い手コース修了生171人、現在受講生114人、市民向け野菜づくりコース春～夏で延べ171人、秋～冬で延べ175人、体験コース

で延べ24人、②担い手コース受講生の就農状況は、修了者171人中146人（新規就農93人＋定年帰農40人＋援農13人）で就農率88%、③農地仲介事業実績は、修了者171人中、仲介者95人、面積20万2999m<sup>2</sup>で仲介率55%、④就農者のJAへの加入は138人中29人（専業農家）である。

当初の予想とは異なり、受講生の年齢構成は団塊リタイア層の60歳代（～65歳）は49%で、50歳代28%、40歳代11%、30歳代10%、20歳代2%と幅広く分布し、雇用拡大に繋がっている。



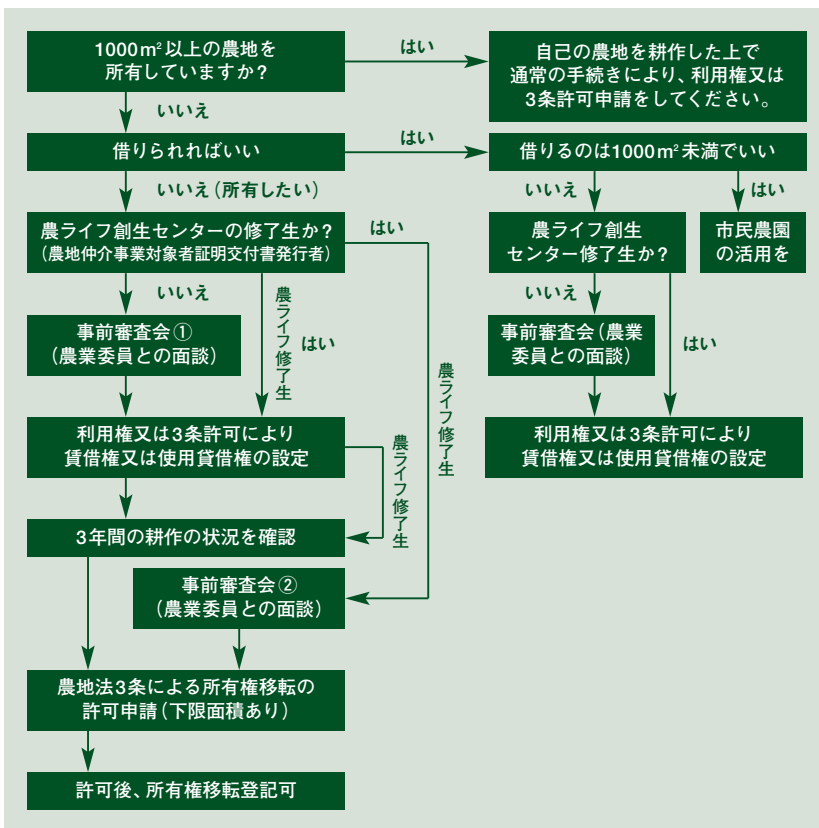


農機具庫で草刈り機を点検する



苗床にカリフラワーやブロッコリーの種をまいて土をかぶせる

### ■ 新規就農者等が農地を借りる・買うには



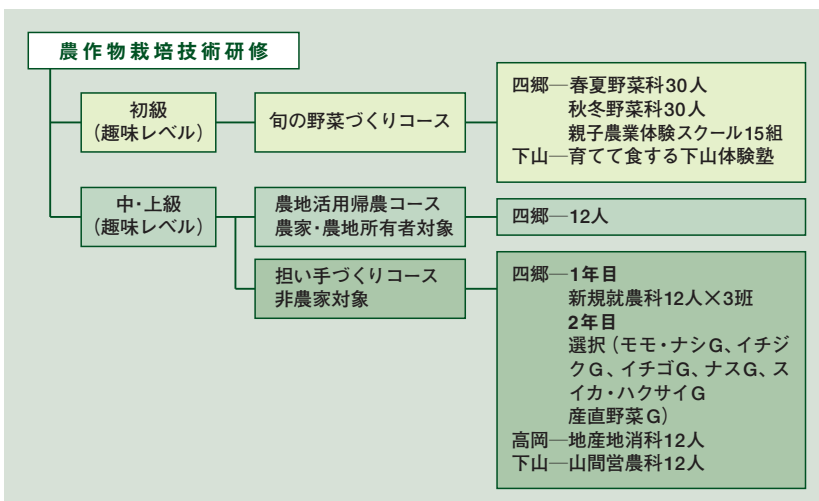
農ライフ創生センターの安藤所長

### ■ ネック克服の仕組みと工夫

設立後5年間の実績から課題として、① 趣味の農業と収益を求める農業の違いへの理解、② 農地を持つ責任、③ 地域や隣接者との融和、④ 共同施設の維持や共同作業への参画などが明らかになった。

これらを踏まえ平成21年度から機構改革を行い、より実践的実習を実施するため、専業農家への講師依頼、農家研修の実施、地域との融和として共同施設の管理や行事への積極的参加、農業機械の操作の完全マスターを基本方針とし、大型農機具のトラクターやコンバイン、小型の田植え機・耕うん機・草刈り機・噴霧器な

### ■ 農作物栽培技術研修の新しい体系(H21年以降)





ビニールで覆われたトマトやナスの畑



研修農場の野菜の生育状況を点検



農ライフ創生センター入口にある営農センター



多様な野菜が育つ研修農場

どの低利用料金による貸し出しも開始した。

### ■新しい役割と魅力

農ライフ創生センターの特色は、多様なステップアップ型技術研修と農地あっせんにある。

技術研修は、市民の多様なニーズに応えるきめ細かなコース・科目設定

であり、受講者は市内在住・在勤が不問であるため、市外からの人もいる。

農ライフ修了生は、農地仲買事業対象者証明交付書の発行により、事前審査会の一部の省略も可能で、農地を希望に応じて所有・利用して農業を営むことができるといった、就農希望者にとって魅力的な仕組みになっており、遠方からの問い合わせもある。

また、農地法3条の下限面積は10a(旧豊田市)から40a(旧下山町)まで多様であり標準小作料は水田10a以上1万2000円、10a未満5000円、畑10a以上7500円である。こうした研修・農地斡旋・農機具貸し付けなどの包括的支援により、耕作放棄地の解消・雇用促進のみならず、農業振興や定住促進の効果が期待できる。

#### プロジェクト概要

事業名：豊田市農ライフ創生センター  
 事業主体：豊田市  
 所在地：豊田市四郷町松本105番地1(センター)  
 事業概要  
 ・施設用地：センターはJA所有の敷地890㎡・未利用倉庫164.94㎡を賃借。高岡研修所は旧Aコープ店283.16㎡を賃借。

下山研修所は廃校の小学校137㎡、倉庫116㎡を活用。  
 ・研修農場：センター3万2616㎡、果樹園2815㎡、高岡9726㎡、下山1万4745㎡  
 ・事業開始年度：センターは平成16年4月、高岡・下山は平成18年4月開所  
 ・総事業費：4062万1000円(市全額負担)  
 ・施設構成：センター施設面積324.45㎡(事務

室、講習室、更衣室、駐車場、倉庫) 高岡研修所施設面積283.16㎡ 下山研修所施設面積192.14㎡(事務室、講習室、倉庫)  
 ・運営管理：豊田市・あいち豊田農業共同組合による共同管理  
 ・年間運営費：2765万円(内2641万7000円を市が負担)